

# 保育園・こども園の生活(おおむね6歳)

## ＜ 生きる力を育む ＞

- ・ 基本的生活習慣の自立  
(清潔・食事・排泄・着脱)
- ・ 集団生活に必要な基本的態度や習慣を身に着ける  
(友だちといっしょに遊んだり生活すること)
- ・ 知的なものの芽生えを育てる  
(自分から探求し試行する態度を身につける)

私たちは、人と環境をつなぐお手伝いをし、一人一人の発達のペースやその子の特性などが連続的につながる様に保育しています。

子どもの生活や発達は保育園やこども園で終わるのではなく小学校へ入ってからも続いています。



家事の手伝い こんなことだって、できるんだよ！  
心地よい先生のお話し...

## あたま (言葉・認識)

### ～想像力は、思いやりの気持ち育てる～

想像力とは、「自分がこう言ったら、相手はどう思うかな？」というように、実際に経験していないことを「こうではないか？」と推し量り、未知のことに見当をつけられるということです。思いやりの気持ちもこの想像力から生まれます。思いやりの気持ちを育てたいと願うなら、幼児期に「想像力」を養いましょう。保育園・こども園では、想像力を養うために、絵本の読み聞かせを行っています。絵本は、アニメのように次々と場面が展開するものと違い、自分のペースでゆっくり読むことが出来ます。その想像力は、ごっこ遊びや劇遊びにつながり、友だち同士の関わりを通して、相手の気持ちに気付けたり、思いやりの気持ちの育ちへとつながっていくのです。

「年長児に身につけさせたい『想像力』『ことばの力』より引用

### ～言葉が持つ力～



「これじゃないかなあ？」

子どもは様々なことに関心を示し、意欲的に環境に関わっていきます。自ら言葉を使い、文字を書いたり読んだりする姿も見られ、文字・数字・記号への興味が増し、意味のある言葉を書き、相手に伝える喜びも高まります。言葉が豊かになり、意思の疎通が問題なく回れるようになる反面、口げんかなども多くなる時期です。思考力も高まり、予想や見通しが立つようになります。



消防署見学



おかいものにいったよ



一年生との交流



入園の準備



なににつくってるの？

夕涼み会



「ここにはめてみて？」



地域のお祭りに参加

## こころ (感情・社会性)

### ～人との関わりで育つ心～

おおむね6歳になると、人との関わりの中で「社会性」が備わってきます。けんかをして泣いたり、物の貸し借りをしたり、子ども同士の関わりから様々なことを学んでいきます。保育園・こども園にはお友だちやお友だちのお父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんまた地域の方などたくさんの方が出入りします。子ども達にとって出会いは『宝』。出会いの中で心が育っていきます。

ボディペインティング

### ～就学前までに育てたい自己肯定感～

自己肯定感とは、「自分が好き」という感覚で、「自分はやればできるんだ」という有能感、自分を信じる力、すべてを含みます。これから、小学生になり様々な経験をして多くのことを学んでいく幼児期には、何より大切になります。自己肯定感とは、3歳までに育てると良いと言われていますが、幼児期にたくさん褒めることで養われていきます。(子どもの言動や努力した事を具体的に褒めることが大切！)「あなたならできる!」「できたじゃない!」は、魔法の言葉で子どもの自己暗示・イメージトレーニングにつながり、頑張りや努力を認め、もっと褒めてあげることで自己肯定感がより高まります。

### “自分を信じる力”を育む遊び

- ＜ 手先を使った遊び ＞  
あやとり、お手玉、けん玉、パズル、折り紙など
  - ＜ 体を使った遊び ＞  
長なわ、とびばこ、たけうま、鉄棒など
- ※これらは、最初は出来なくても少しずつ出来るようになり、自分の成長を感じるられる遊びです。



できた!



これをこうしてって



水なんか怖くないぞ



やった! 上まで登れたよ!

## からだ (運動機能)

### ～意欲的に学ぶ力について～

幼児期は豊かな生活体験があれば、自然と“意欲的に学ぶ力”は育ちます。また、五感を使う自然体験などは生活を学ぶ基礎となります。



それ～ロケットだよ



頂上まであと少し...



玉ねぎの収穫



滝すべり楽しいな!

### ～お箸と鉛筆との関連性～

今、お箸や鉛筆を正しく持てない子どもが増えています。なぜかという、お箸の基本動作の「つまむ」動作がうまくできないからです。保育園・こども園では、小さい時から指先(つまむ・ちぎる)を使った遊びを多く取り入れ指先の機能を高め、正しくスプーンが持ててからお箸に移行し、正しく持てるように導いています。ただし、個人差があります。あせらずに教えてあげてください。

図のように、正しいお箸の持ち方から手前の1本(固定箸)をそのまま引き抜いて、残った動箸は鉛筆を持った時と同じ形です。お箸と鉛筆の持ち方は、1本か2本かの違いで、基本的には同じです。正しく持って「食べる」「書く」ということは、姿勢もよくなる事につながるのぜひ、就学前に直したいですね。



この一本を強くお箸の持ち方になります



はしは握るから白



はしは握るから白



はしは握るから白